

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	経済学研究科
大項目	5 学生の受け入れ (研究科)
中項目	
小項目	5.0.1 学生の受け入れ方針を明示しているか。
要素	求める学生像の明示 当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示 障がいのある学生の受け入れ方針
小項目	5.0.2 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。
要素	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性 入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性
小項目	5.0.3 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。
要素	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性 定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応
小項目	5.0.4 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 自己点検・評価(2010.5.1~2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度~2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA~Dの4段階とし自ら評価した。A~D評価は目安として次のようなものである。

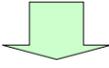
- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 経済学部、本学他学部の早期卒業生の経済学研究科への進学推進と後期課程進学者の確保による、収容定員に対する在籍学生数比率の向上をめざす。	→学部からの早期卒業による本研究科への受験者数、進学者数、後期課程進学者数。	C	B			
2. エコノミストコースについて、本研究科単独カリキュラム運用から、他研究科との連携カリキュラムの運用へ見直し、学部から本研究科前期課程への高度職業人志望の進学者の段階的増加をめざす。	→社会人学生の受入れ数。	B	B			
3. 高い学力を持った外国人留学生を確保する。	→外国人留学生の博士課程後期課程進学者数。	B	B			
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(1)】効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目5.0.1	
小項目5.0.2	2010年度は経済学部からの早期卒業による研究科への入学者が2名であったが、2011年度は4名であり、成績優秀による筆記試験免除者も加えると7名の入学となった。(成績優秀者が大学院へ目を向けてきている。)
★小項目5.0.3	
小項目5.0.4	
その他	



【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目5.0.1	
小項目5.0.2	優秀な学部生が大学院へ入学し易くする(定員充足率に対する抜本的な改革のひとつ)学部・大学院一貫カリキュラム(新コース制)の検討結果を出す。
★小項目5.0.3	
小項目5.0.4	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(2)】改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目5.0.1	
小項目5.0.2	
★小項目5.0.3	博士課程前期課程の定員が慢性的に未充足である。
小項目5.0.4	
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目5.0.1	
小項目5.0.2	
★小項目5.0.3	エコノミスト・コースのあり方を含めた博士前期課程の定員設定について検討する。
小項目5.0.4	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

- 2011年度において、博士前期課程の定員充足率が43.3%まで低下しています。
- 学部早期卒業からの採用に加えて、社会人や外国人からの募集を増やすなどの施策を強化すべきと考えられます。

【学内委員】

- 5.0.4は学生募集や入学者選抜の公正さと適切性を問うているので、もっぱら定員充足率に言及している説明の内容はそぐわないのではないのでしょうか。記述の内容はむしろ5.0.3に対応していると思います。
- 2010年度、「博士前期課程の定員充足率が53.3%であった。」(小項目5.0.4)、とされ、収容定員に対する在籍学生数比率が問題とされ、その向上が課題とされています。学部の早期卒業生の進学・筆記試験免除制による進学の推進による成果は一定程度評価されます。しかし、2008年度から2010年度への上記比率の低落傾向には歯止めがかかっておらず、2011年度の最終成果を踏まえつつも、一層の改善が期待されます。なお、周知のことですが、大学基準協会編「『大学評価』ハンドブック」(平成23年4月)139ページでは、収容定員に対する在籍学生数比率の基準は、大学院でも1.00とされています。
- 小項目5.0.2については、特定の入試形態のみの記述になっていますので、大学基準協会の留意事項などを参考にされた記述が望まれます。その他の小項目についても参照してください。
- 昨年度の次のコメントは本年度もそのままコメントとします。
 - ・収容定員充足率の低さが気になります。研究科委員会、執行部での検討により具体的な改善策の策定が望まれます。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

- 小項目5.0.1
 基盤評価：「理念・目的、教育目標を踏まえ、求める学生像や、修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を、学部・研究科ごとに定めていること」「公的な刊行物、ホームページ等によって、学生の受け入れ方針を、受験生を含む社会一般に公表していること」
- 小項目5.0.2
 基盤評価：「学生募集、入学者選抜の方法が、受験生に対して公正な機会を保障し、かつ大学教育を受けるための能力・適性等を適切に判定するものであること」
- 小項目5.0.3
 基盤評価：「【学士】学部における過去5年の入学定員に対する入学者数比率の平均が1.00である(※)」
 (略)
 「【学士】学部における収容定員に対する在籍学生数比率が1.00である(※)」
 (略)
 「【学士】学部における編入学定員に対する在籍学生数比率が1.00である(※)」
 (略)
 「【修士・博士・専門職学位課程】部局化された大学院研究科や独立大学院などにおいて、在籍学生数比率が1.00である」
- 小項目5.0.4
 基盤評価：なし
 達成度評価：「検証を実施する体制を整備し、責任を明確にするなどしたうえで、学生の受け入れの適切性について、恒常的かつ適切に検証を行っている」
- 小項目5.0.1～5.0.3
 達成度評価：「学生募集、選抜の実施状況等は、公正・適切なものである。(評価に当たっては、当該大学の説明・証明から、下記のことが明らかであるかに留意する。)」
 - ・学生の受け入れ方針と、学生募集、選抜の方法等の整合性
 - ・学生の受け入れを適切に行うための必要な体制の整備

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述



学部早期卒業生の大学院博士課程前期課程への進学の促進については従前より取組みを行ってきたところであるが、学部カリキュラム改定により2012年度から大学院・学部の合併開講科目の拡充と併せて、さらなる取組みを行う態勢である。また年2回、学内からの大学院進学者への説明会を現役院生による体験談紹介も含めて実施し、大学院進学に係る情報提供、広報活動を行っている。

博士課程前期課程入学者数の減少は、社会人対象(エコノミスト・コース)による入学者が大きく減少していることが要因としてあげられ、社会人大学院に対する社会の需要やその他環境の変化などを検証したうえで、コースのあり方について検討が必要であると考えている。留学生(外国人大学院生)の募集増加については、大学院生全体の質的水準の確保に係る問題などを含め、さまざまな視点から慎重に検討する。